

若手イニシアティブセミナー

Wakate-Initiative Seminar



筑波大学
University of Tsukuba

ショウジョウバエを用いたインスリン様 ペプチド発現制御機構の解析

西村 隆史 博士

(独) 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
成長シグナル研究チーム チームリーダー

日時： 2011年8月4日 (木) 16:00 – 17:30

会場： 筑波大学 総合研究棟A棟 A107室

インスリンおよびインスリン様成長因子は、進化的に保存された内分泌ペプチドホルモンである。その生理作用は多岐にわたり、血糖値調節を始めとした代謝制御や発生・胎児期における成長促進のみならず、寿命や生殖にも関連している。我々は、ショウジョウバエをモデル生物として、組織間の内分泌シグナルによる個体成長および発生タイミングの制御機構について研究を行っている。ショウジョウバエにおいて、インスリン様ペプチドの機能欠損は、血糖濃度の上昇に加え、著しい体サイズの減少と発生遅延を引き起こす。インスリン受容体を介した作用機序と細胞内シグナル伝達の理解は進んでいる一方で、摂食に伴うインスリン様ペプチドの発現および分泌制御については不明な点が多い。

本セミナーでは、ショウジョウバエにおけるインスリン様ペプチドの発現制御機構について紹介する。また、ショウジョウバエで見いだした知見から、哺乳類のインスリン発現制御との関連性についても述べる。

本セミナーは「次代を担う若手大学人育成イニシアティブ」主催セミナーです。奮ってご参加下さい。

連絡先：生命環境科学研究科 丹羽隆介 (内線 4907; rniwa@biol.tsukuba.ac.jp)